

第1回 学期制検討に関する懇談会（小田原市立小・中学校） 会議概要

- 1 日時 平成30年2月5日（月）15時10分～16時40分
- 2 場所 小田原市役所3階 議会全員協議会室
- 3 出席者 石塚 等、堀賢一郎、栗畑寿一郎、小林 敦、中島正視、岩田真由美、八木規孝  
中村栄江、本多忠幸、上村勝治、寺内浩司、土谷隆之、益田麻衣子  
<教育委員会> 内田里美、友部誠人、飯田義一、川口博幸、菴原晃、鈴木一彦  
<事務局> 高田秀樹、大須賀剛
- 4 配布資料
  - ・次第レジュメ 名簿
  - ・第1回 学期制検討に関する懇談会 開催要項
  - ・資料A 学期制に関する懇談会について 計4ページ
  - ・資料B 陳情第93号
  - ・資料C 今後の学校2学期制のあり方について（報告） 計6ページ  
…<小田原市>学校2学期制検討委員会（平成23年12月）
  - ・資料D 小田原市学期制検討に関する懇談会開催要綱（平成30年1月1日）
  - ・資料E 新しい学習指導要領の考え方 文部科学省 全92ページ
  - ・資料F 平成29年度～平成32年度・関係項目一覧
  - ・資料G 実態調査用紙例（A市・B市）
  - ・資料H 石塚等先生の資料
- 5 傍聴者 0名
- 6 会議内容
  - 1 開会あいさつ（教育長）
  - 2 自己紹介
  - 3 内容
    - （1）学期制に関する懇談会について
      - ①懇談会設置の経緯  
<事務局>  
資料Aにより経緯を時系列に説明。  
資料Bと資料Cの内容について確認。
      - ②懇談会の趣旨、位置づけ、要項の確認  
<事務局>  
資料Dにより「小田原市学期制検討に関する懇談会開催要綱」について説明。
        - ・小・中学校の代表者や市PTA連絡協議会の代表者、学識経験者を含めた検討に関する懇談会を開催し、総合的に情報を収集するとともに、来年度も検討を重ねていく。
        - ・平成31年度初旬の教育委員会定例会において、協議事項として審議し、学期制について

での決定をしていく。

- ・本懇談会は、最終的に「懇談会としてのまとめ」を作成するが、本懇談会で学期制について決定するものではない。まとめについては、教育委員会定例会で判断するための参考資料となる。
- ・平成23年度に教育委員会として決定した2学期制の継続について、ここで改めて、実態調査の実施、現在の教育環境・教育課程をふまえた検討を行い、児童生徒にとってよりよい学期制・教育課程のあり方について意見を交換していく場となる。
- ・第3条、会議の組織について。第4項には、「懇談会は必要に応じ、調査部会を開催することができる」とあるように、主としての意見交換の場となる「懇談会」と、懇談会のために事前の調査研究や準備を行う、必要に応じて設置する「調査部会」がある。

<進行>

①②に関して、質問意見はあるか。

→なし

### ③小田原市における2学期制の現状について懇談

<事務局>

資料Cにより、平成23年12月に2学期制の継続を決定した上での現状があることや、その時に「今後の課題」として記されていることについて紹介。

資料Eにより学習指導要領改訂のスケジュール、時数が増えている事実を説明。

資料Fによりエアコンをはじめとした施設面、新学習指導要領について、校務支援システムについて確認と補足説明。

- ・平成25年度より校務支援システムを導入している。2学期制の継続であれば特に問題ないが、仮に、平成31年度初旬の教育委員会定例会で、『3学期制に回帰する』と決定した場合にも、校務支援システムでは、すぐに通知表検討会を実施し、新しい様式を決定していくことで、システムの対応が可能である。

<進行>

現状について、また、学期制について、学校現場、そして保護者の声として、順番に意見を伺いたい。

<堀校長>

3学期制から2学期制の試行を行った際に白山中学校で研究主任を行っていた。定期テストは当時すでに市内中学校12校全て年間4回になっていた。運動会が秋から春に動いた時期であり、年度当初の健診などで授業が十分確保されなかったのが原因だった。陳情の4段落目について、指摘されている部分は現状としてはない。

<栗畑校長>

校長会で意見を聞いた。千代中学校内でも校内の職員に投げかけた。いずれも変えてほしいという意見は出てきていない。定着してきているのになぜ戻すのかという意見が100にしたら99.99くらいととらえている。陳情の本文の26行目が断定的過ぎており、学校現場のことを分かっていないのではと思う。学校現場でたくさん出てきたのでは仕方ないが、学校現場の職員からは出ていない。

<小林教頭>

平成18年当時の教育指導課・椎野課長が各学校に説明のために訪問した。分かりやすい説

明だった。時数を生み出すために2学期制がどのように有効なのか、夏休みは前期の延長で後期に自然につながっている等、いくつかの点で説明があった。当時の資料があれば見せてほしい。

<中島教頭>

地区教頭会、市教頭会に意見はまだ聞いていない。3町は3学期制だが、学期制についての意見は出ていない。どちらの学期制もいいところを生かしている。自校の様子から見ると夏休みの教育相談が学習の意欲付けになり、休業明けのテストに向けた子供たちの自主的な学習に生かされている。

<八木総括教諭>

教務を担当しており、行事等を精選しながら時間数の確保に努めている。3学期、2学期制のどちらもいいところがある。やっと定着しているもので、またここでなぜ3学期制という話題になるのか、という疑問がある。次期学習指導要領への移行期間に入り、1時間をどういう風に組み入れるかと苦難しているところであり、その点からすると3学期制より2学期制の方が時間を確保しやすい。2学期制に変わった当時は保護者の戸惑いの声もあったが、今はほとんど聞かれないので現状のままが良い。

<岩田総括教諭>

小学校の教務を務めている。時数の確保に悩んでいるところである。2学期制の導入は時数の確保が大きな要因だった。教師側の視点になるが、通知表が1回減ったことによる仕事の軽減ができ、7月や12月は子供と向きあう時間がとれるようになった。保護者の戸惑いもなくなってきた。保護者も教員も10年が経ち、2学期制に慣れて落ち着いてきた。

<中村総括教諭>

小学校と行事を合わせる中、行事の時期設定のやりくりや評価評定をどの時期に出すのかなどの戸惑いは導入時からくらべるとだいぶ慣れてきた。保護者、教員とも現状で不都合があるという意見はない。進路に関わる成績を11月末に出さなければならないが、3学期制のよさを生かして調整している。夏休みの学習会についても長期休業中の生徒の学習の場になっている。

<本多総括教諭>

担当する3年では志願変更で今日も朝から対応していた。進路の目安の資料とするため、夏休み前に成績を出すため、3年生は年間4回出すことになっている。1、2年生は年間3回だが、夏休み前に成績を出している。3学期制のときは12月が慌しかったが、教育相談など生徒と向きあう時間がとれるようになった。3年生の成績の出す回数に関しては課題がある。

県内の学期制の現状についての資料があるが、2学期制と3学期制の割合など横浜市の具体的な数字が知りたい。

<寺内総括教諭>

教職員組合として、学校でいろいろな話を聞いてくる機会がある。小学校の先生は2学期制のまま、中学校の先生は意見が分かれていて、テストの兼ね合いで3学期制のほうが良いという意見もある。今のままでちょうど良いと言う先生もたくさんいる。

<上村教諭>

陳情を読み、指摘の要点は2点ととらえた。テストが1回減っていて生徒の1回あたりの負

担が増えるという点について、中学校では単元テストをこまめに行い、早めに子供にフィードバックすることで学力向上につなげている。評価についても定期テストだけでなく、授業時間にも行われているため、定期テスト1回分の子供の負担は全体の中では減ってきている。

また、試験回数が減って教職員の負担が減るわけでない。試験が減るから負担が減るのではなく、評価の回数が影響する。通知表を出す際に、回数を重ね、複数の職員でチェックを行っている。こういった時間を少しでも生徒と向きあう時間にできればと思っている。

#### <市P連・土谷研修委員長>

授業時間数の増加が図られていないとあるが、本当なのか。子供とふれあう時間を確保するなど、どのように変わっているのか、現状を聞きたい。

2学期制に移行された当時、2学期制は絶対反対だと言っていた委員がいた。アンケートの結果で最終的に決まったが、その委員はアンケートに回答していなかったと聞いた。この懇談会がどのように進められていくのかという視点を持って出かけてきた。

今後アンケートを行っていくが、3学期制を知らない人に意見を聞いても仕方ないのかと思う。

#### <市P連・益田顧問>

3人子供がいる。1人目の子供が小学校2年のときに2学期制になった。学校も保護者も子供もすごく混乱した。小学校は良いが、高校受験との兼ね合いで中学校は3学期制のままで良いと思っていた。部活動の大会も定期テストと重なる競技もある。3人目になり、仮の成績を7月に出し、前期の評価が出るから、夏休みを含めたその期間に学習に努力して取り組んだ。学校は良いところを取り入れて実践している。

子供に聞いた。「戻すって何？」ということだった。新しいものをはじめることになる。主体は子供なので、子供の目線で考えたい。陳情の内容に関して言うと、3学期制にすることによって塾に行く割合が前後するわけではない。

#### <石塚教授>

今後の検討の際の観点としてほしい点についてふれたい。

- ・教育長のあいさつにもあったが、2学期制、3学期制どうするのかは教育の観点で決めるべき。子供にとって、教員にとって、学校にとってどうなのかという観点。成績表、通知表などの問題もあるので、保護者の方々等、教育に関与する立場の意見を総括していく必要がある。
- ・それぞれのメリットがそれぞれのデメリットになる。学習評価、授業時数の問題や長期休業中の空白の期間をどうするか等を総括しながら検討していく
- ・これまでの経緯を見たが、平成16～17年度頃は学力低下不安が指摘され、授業時間数を確保するために従来の3学期制から2学期制に移した自治体が多かった。平成27年度の文部科学省の調査によれば、3学期制が8割、2学期制が2割くらいになっている。教育委員会が定める場合、学校で定める場合がある。また戻している学校もある。それぞれの実情で判断していくべき。
- ・これからの教育改革の動き、小学校は平成32年度でこの4月からは移行期間に入っていく。特に小学校は時間数が増える。小学校は段階を経て増えていく。今回は外国語教育を充実させただけでなく、主体的で対話的な深い学びやカリキュラムマネジメントなど

の授業改善や全体の改革が求められている。こういった部分に時間を費やしてほしい。

- ・横浜市や県内・周辺の自治体の状況も参考にしていけると良い。

<進行>

確認だが、陳情が出たから戻すではなく、様々な教育現場の現状、これからの教育改革を踏まえて、今一度学期制について考えていく機会としてとらえてほしい。

## (2) 今後の見通しについて

### ①懇談会と調査部会及び構成員、今後の開催予定

<事務局>

先ほど意見のあった横浜の数値については、今後の懇談会で示したい。分かっている範囲での回答になるが、横浜は2学期制を選択している学校が多い。

資料Aにより懇談会と調査会の構成員及び今後の予定を説明。

- ・意見交換をする「懇談会」と、そのための事前調査・研究や準備等をする「調査部会」によりすすめる。調査部会の部会長は、校長会代表から山王小・堀校長にお願いする。
- ・第1回懇談会のあと、3月「第1回調査部会」と5月「第2回調査部会」で実態調査（アンケート）の項目を含めた実施方法をつめていく。「第2回懇談会」において、実態調査の実施方法等について決定していく。
- ・7月に実態調査を実施、8月と9月の「第3回調査部会」で集計と分析、10月の「第3回懇談会」で実態調査の考察をする。
- ・その後は、教育課程のことを含めた関連課題の検討、懇談会としてのまとめの作成・確認を予定している。

### ②実態調査

<事務局>

資料Aにより実態調査について説明。詳細は調査部会でつめていくが、対象や項目など大きな方向性について提案。

- ・3学期制を経験していない児童生徒なので、<参考>に記した県内・他の自治体同様、児童生徒は対象外とし、今後、2回の調査部会で作成したいと考えている。
- ・アンケート項目や内容の最終決定については、次回の懇談会の案件と考えているが、主として、実態調査の方向性及び児童生徒を対象外としてよいかについてご意見を伺いたい。
- ・資料Gは、（著作権のことがあるので）自治体の名前は伏せるが、2つの自治体の実態調査・アンケートの今後の参考となる具体例として添えている。

<進行>

実態調査の対象などについて質問はあるか。

<友部副部長>

事務局から意思決定という話があったが、検討会ではないので、あくまで懇談会ということで意見を交換する場という認識でいいか。

<事務局>

ここでは学期制の意思決定ではなく、アンケート項目についての意思決定である。様々な意見を聞く場として、合意できない場合は最終的には事務局が気づかる。本懇談会は意見交換の場である。

<進行>

教職員、評議員会、運営協議会は全員、保護者は無作為抽出、児童生徒は対象外になっているがその対象について、また、調査項目が5つあるが、それらの点について質問意見はあるか。

<石塚教授>

保護者が無作為抽出となっているが、小、中学校の割合や低学年と高学年などの割り振りについては意向があるか。授業時数の関係等、学年で違いがあると思うが。

<事務局>

500件を9学年均等に抽出して行う予定である。

<石塚教授>

均等になっているばらつきでないといけない。

<益田>

兄弟がいる場合については、どの子について回答すればよいか分からないのではないか。

<事務局>

生年月日で抽出し、宛名は「児童生徒名 保護者様」となる。複数いた場合にはその子宛にはなるが、広い視点で回答してもらってよいと考えている。この人数で信頼係数を得られると考えているが、今回のご意見も今後の参考としていく。

<益田>

保護者によってはどこまでこの調査の意義が伝わるかが不安。教職員や学校運営協議会の方々は説明があつての回答になると思うが、保護者は文面のみになると思う。きちんと伝わるように工夫してほしい。

<事務局>

今後の参考としていく。

<上村教諭>

集計の仕方については、小学校、中学校の別にしてほしい。小学校と中学校に傾向が分かれると思うが、数で一緒にすると小学校寄りになると予想される。ぜひ別にしてほしい。

<事務局>

資料G、B市の教員用のように、小学校、中学校の区別をしていくことを考えている。今の意見を今後の参考としていく。

<進行>

その他、質問や意見はあるか。

→特になし

### ③今後の懇談内容、視点、課題

#### ④その他

<事務局>

- ・時間の関係で次回以降の内容としたいが、今日の段階で特にあれば伺いたい。
- ・今後のより深く懇談した方がよい内容、視点、課題については、第4回懇談会あたりで時間をかけて検討したい。
- ・資料H及び資料A「6 全国における学期制の状況」「7 県内における学期制の状況」を今後の懇談の参考にしてほしい。

<進行>

③④に関して、質問や意見はあるか。

→特になし

#### 4 連絡・閉会

<事務局>

- ・組織の代表としての参加者は、その組織における内容の共有をお願いしたい。
- ・次回の懇談会は6月上旬を予定、この間、2回の調査部会を予定している。
- ・6月の懇談会ではアンケートの実施方法や項目について決定・確定していくが、その後の集計や活用、考察の見通しについても意見交換をしたい。そのため、調査部会でつめたことを、メールで事前に共有したり意見交換したりしたい。
- ・学校現場の多忙な状況をふまえて、教師が少しでも多く、子供と向き合うためにも、この懇談会の回数を増やすことは避けたい。メールでの事前確認に協力してほしい。
- ・年度をはさんで所属や担当が変わった場合には連絡・相談してほしい。
- ・次年度の懇談会と調査部会は、小田原市行事調整会議で他の行事や会議とあわせて調整する。2月下旬の行事調整会議で日程が決まったあと、連絡する。